

全国的な学力調査の CBT 化検討ワーキンググループ 中間まとめ「論点整理」(令和2年8月28日)(抜粋)

## ＜今後さらに検討を行う主な論点＞

### ＜各論＞

#### (2) CBT の利点を活かした学力調査の在り方

##### ①実施の仕方

- ・全国一斉実施の場合、一定期間内(複数回)実施の場合等の論点

##### ＜今後さらに検討を行う主な論点＞

- ・一定期間内にいつでも調査を受けられるようにする場合の具体的な方策
- ・問題を一定期間非公開とする設定方法やその実効性

##### ②調査問題

- ・全国同一の問題セットとする場合、複数の問題セットとする場合
- ・CBT における出題方式・調査問題作成のパターンや選択肢について

##### ＜今後さらに検討を行う主な論点＞

- ・児童生徒の学力を測定する際の精度や領域別学力のフィードバックのあり方
- ・問題数、作問体制、作問スケジュール等への効果や影響
- ・問題の公開／非公開及びそれに伴う教育現場へのメッセージ性や指導の在り方への効果や影響
- ・年度間比較の必要性
- ・CBT で記述式問題を出題することのメリットと課題(PBT 方式との比較)

##### ③項目反応理論 (IRT)

- ・項目反応理論を導入する場合の利点や課題

##### ＜今後さらに検討を行う主な論点＞

- ・IRT を用いた CBT 方式 (分冊方式、LOFT 方式、適応型とマルチステージ方式等) のパターンとその特徴
- ・IRT を導入する場合、測定機能の強化、指導改善、EBPM 推進の観点からのメリット
- ・IRT を導入する場合、問題漏洩への対応策
- ・IRT を導入する場合、問題バンク作成の必要性
- ・IRT を導入しない場合、例えば、年度間比較や現行より正確な学力測定をしたり、一定期間内に複数回実施したりするための方策や IRT を導入する場合と比較した場合のメリット・デメリット
- ・CBT・IRT を活用して地方自治体が独自に実施している学力調査の評価及び連携の在り方

## ⑤特別な配慮が必要な児童生徒への対応

- ・より丁寧な配慮を行うために、どのような方法が可能か

### <今後さらに検討を行う主な論点>

- ・障害の種類や程度等に応じた合理的配慮の在り方
- ・CBT化によって、新たに必要又は可能となる配慮(現行の全国学力・学習状況調査は、点字版、拡大文字版、ルビ振り版の3種類の問題を用意するとともに、実施の際は、別室実施や時間延長などの配慮を行っている。)

## (3) CBT 特有の課題・論点

### ③学校現場における円滑な実施

#### <今後さらに検討を行う主な論点>

- ・学校における ICT 環境を踏まえた必要な対応
- ・学校における調査の担当者・教師の負担をできるだけ軽減するための方策等

## (4) 実施体制等

### ①CBT システムの開発(業務管理、CBT、採点、集計・分析、問題バンクなど)

- ・実施する際に必要となるシステムやパターンはどのようなものがあるか

#### <今後さらに検討を行う主な論点>

- ・児童生徒の端末上での操作方法(画面の操作方法や、記述式の場合、キーボード入力または手書きとするか、調査中の誤操作や、漢字変換機能の制御等の在り方等)

### ②実証研究、予備調査、試行等を含めたスケジュールや具体的な進め方

#### <今後さらに検討を行う主な論点>

- ・実証研究の実施に向けて留意すべき点、初期段階の実証研究で確認すべき事項
- ・予備調査、試行等の規模や実施にあたっての留意点
- ・PBT から CBT への円滑な移行のための方策